

断面修復後の表面処理 施工手順

■ 施工方法

1 施工前

施工前の状態



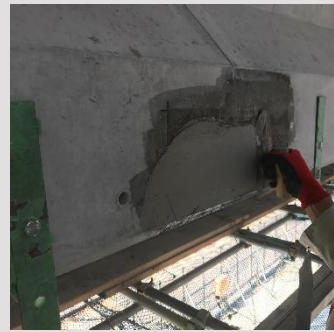
2 不陸研磨

ダイヤカップ又は平面研磨砥石にて仕上がり表面レベルまで平坦に研磨します。
*仕上がり面より凸が無くなったのを確認しましょう。



3 補修材処理

リペレジで全体を覆うように塗ります。凹んだ部分や細かい隙間を埋めるイメージです。
*少し盛り付けるようにしましょう



4 補修材研磨

リペレジが半乾きになったらコテ・スクレーパーで削り落としましょう。
*写真は#80の砥石を着けたグラインダーを使用。



5 プライマー塗布

完全に乾いた後、セメント用プライマーを塗布します。
*垂れない程度に薄く塗りましょう。



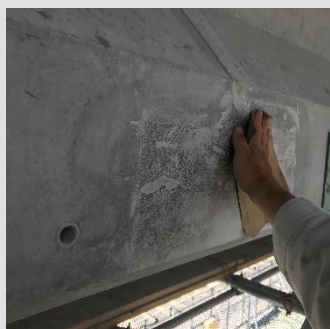
6 ライニング材処理

Cリペライニングを下地が透けるくらい薄く塗ります。下地が乾いてきて塗りにくい時は再びプライマーを塗りましょう。



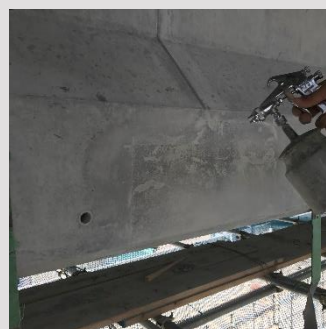
7 ペーパーがけ

完全に乾いた後、周囲との境目やコテ跡・バリをスクレーパーやペーパーで取り除き、細かな段差をなくします。



8 吹付け処理

Cリペカラーを少しだけ吹付けて色を確かめ、乾かしながら少しずつ吹き足していきます。周囲と違和感がなくなり、下地が消えるとOKです。



9 模様付け

シミや、模様を付けて周囲との違和感をなくします。シミや模様をつけて周囲との違和感がなくなれば完成です。



準備する物

- 練り用金コテ
- 塗り用金コテ
- ボウル
- スクレーパー
- 耐水ペーパー#600
- ワイヤブラシ
- 小バケツ
- 刷毛
- ウエス
- ワグナー
- コンプレッサー
- エアホース
- エアガン
- 模様付けパット
- ガストーチ
- ブロワー
- グライNDER
- 平面研磨砥石#36・#80
- ダイヤカップ

準備する材料

- リペレジ
- リペライニング
- Cリペカラー
- トーンカラー
- 水
- セメント用プライマー（ロイヤルW21を水で20倍程度に希釈したもの等）

■ 施工の注意点

- リペレジシリーズはプレミックスタイプの補修材です。水だけで練って下さい。強度を増すために接着剤等を混入した場合、硬化時間・色が設定と異なる場合がありますのでご注意下さい。
- 水で練り混ぜた物は残さず全部使用して下さい。**硬化が始まってからの再加水・練り返しはしないで下さい。**クラック・接着不良の原因となります。
- セメント系ですので、風化・吸湿性があります。保存には充分注意しなるべく早めにご使用下さい。（5kg内袋は、保存性を良くするためヒートシールしてあります。さらに、輪ゴムが袋に入っていますので、使い残した物の封にご利用下さい。）
- 補修の際は下地の余分な凹凸は予めハンマー・チス・スクレーパー等で取り除き、掃除をして下さい。離型剤が表面に残っている場合は特に剥がれ易くなります。ブラシ等で補修面を擦り、水湿すると効果的です。
- スクレーパーや金コテで手を切る恐れがありますので扱いにご注意ください。
- Cリペライニング、Cリペカラー等に記載されている**注意書きを必ずお読みください。**
- Cリペカラーに混和液を混入後は、24時間以内に使い切ってください。
- 吹付けする際、付着すると困るような箇所には予め養生してください。万が一付着したら水で濡らしたウエスで拭き取ってください。
- Cリペカラーは使用の際、しっかりと混ぜてご使用ください。混ざりきっていないとムラができる場合がございます。
- Cリペカラーは**少しずつ薄く吹き重ねるように**吹付けてください。一度に厚く吹きますと水滴が垂れてしまい仕上がりが悪くなってしまいます。『吹付け→乾燥→吹付け→乾燥…』と下地が見えなくなるまで繰り返してください。
- 模様付けは規則的に叩くと違和感がでてしまうので周囲の模様を参考に自然な風合いに一定になるよう軽く叩いてください。